

令和4年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
「大規模災害時における地域連携を踏まえた更なる災害医療提供体制強化に関する研究」

分担研究報告書

「DMAT隊員のメンタルヘルスチェックシステムに関する研究」

研究分担者 西 大輔（東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野 教授）
研究協力者 浅岡 紘季（東京大学大学院医学系研究科精神看護学分野 博士後期課程）

研究要旨

初年度の令和4年度は、①新規・更新研修時にメンタルヘルスのチェックを実施するための準備を行い、年度内の開始を目指す、②EMISとメーリングリストを用いた昨年度までの調査を継続する、③病院の管理者等、DMAT/DPAT隊員を派遣する立場の方々にインタビューを行い、医療救援者のメンタルヘルスに関する推奨事項、および所属組織として医療救援者のメンタルヘルスに重要と考えられる推奨事項を修正し、活用方法を検討することを目的とした。令和4年度は、研修時調査の開始、EMIS調査の第6回調査、病院の管理者等のDMAT・DPAT隊員を派遣する立場の方へのインタビューを実施でき、計画通りに研究を実施することができた。当初の計画に加えて、インタビュー内容より重要と考えられた、Professional fulfilment Indexの日本語版の翻訳、信頼性と妥当性の検証のための調査を実施した。研修時調査の回答率はこれまで実施していたEMIS調査と同程度であり、来年度以降の調査方法の検討が必要であると考えられた。DMAT・DPAT隊員を派遣する立場の方へのインタビューより、当分担任にて作成した「医療救援者のメンタルヘルス推奨事項」、および「所属組織として医療救援者のメンタルヘルスに重要と考えられる推奨事項」を普及することは重要と意見を得るとともに、修正を実施し、今後現場に実装を進めていくための準備を進めることができた。令和4年度は予定通りに研究を実施できたため、令和5年度も当初の計画より変更はせずに研究を進めていく予定である。

A. 研究目的

当分担任では、3年間の目的として、新規・更新研修時にメンタルヘルスのチェックを組み込む、Disaster Medical Assistance Team (DMAT：災害派遣医療チーム)・Disaster Psychiatric Assistance Team (DPAT：災害派遣精神医療チーム)隊員のメンタルヘルスの関連要因をさらに検討する、「医療救援者の個人へのメンタルヘルス推奨事項」および「所属組織として医療救援者のメンタルヘルスに重要と考えられる推奨事項」を完成させて普及することを目的としている。

初年度の令和4年度は、下記①-③を目的とした。

- ① 新規・更新研修時にメンタルヘルスのチェックを実施するための準備を行い、年度内の開始を目指す。
- ② EMISとメーリングリストを用いた昨年度までの調査を継続する。
- ③ 病院の管理者等、DMAT/DPAT隊員を派遣する立場の方々にインタビューを行い、医療救援者のメンタルヘルスに関する推奨事項、および所属組織として医療救援者のメンタルヘルスに重要と考えられる推奨事項を修正し、活用方法を検討する。

B. 研究方法

- ① 新規・更新研修時について、調査可能であるか

や調査方法などについて関係機関と議論し、調査を実施する方針となった。今年度の調査の方法は、2022年11月15日から2023年3月31日DMAT・DPATにて実施されている新規・更新研修の全参加者と全講師に研究参加依頼のチラシを配布し、チラシに記載されたURLより当分担任のWeb上の同意書と調査票にアクセスをいただき、オンラインにてご回答をいただいた。講師は他の研修と重複して参加するケースがあり、人数のカウントの際には重複を考慮した。

- ② DMAT全隊員、DPAT先遣隊を対象に、2022年10月18日～11月20日に、Emergency Medical Information System (EMIS)およびメーリングリストを用いての第6回目のオンライン調査を実施した。
- ③ DMAT・DPAT隊員がご所属の病院長や救命救急センターの先生方5名に60分のオンラインのインタビューを実施し、意見を得た。
- ④ ③のインタビューより、派遣活動を通して医療従事者としての成長や医療従事者としてやりがいを感じる方が大多数であり、メンタルヘルスの観点よりポジティブな面を測定することが重要と考察され、原著者の承認を得て、Professional fulfilment Index(PFI)の日本語版の開発を実施し、②の調査において日本語

版の信頼性と妥当性の検証を実施した。PFIはStanford UniversityのProf. Trockel Mらによって開発されたProfessional fulfilment(仕事上の充実感)とBurnoutを測定するための16項目の尺度である。

本研究は、東京大学大学院医学系研究科・医学部倫理委員会(2019164ND)、および国立病院機構災害医療センター倫理委員会(2019-19)より承認を得て実施された。研究参加への同意(インフォームドコンセント)は、オンラインにて研究の説明文書を明示し、同意書にご回答をいただく方法にて、同意を得た。

C. 研究成果

- ① 2022年度に実施された研修において、DMATは養成研修26回中11回、技能維持研修25回中10回調査を実施した。研修の参加人数(受講者および講師)は、立川・大阪・兵庫事務局が集計して下さった人数を用いた。173名の方が回答をくださり、回答率は6.2%(173/2,800)であった。DPATは、先遣隊技能維持研修(10/8,9)のご受講者116名、統括・事務担当者実践訓練(11/12)のご受講者52名に研究参加の依頼をした。23名の方が回答くださり、回答率は13.7%(23/168)であった。
- ② 13,335名(DMAT: 13,123名、DPAT: 212名)に研究参加依頼をし、1,118名より回答が得られ、回答率は8.4%であった。メンタルヘルスの指標の1つであるK6が13点以上の方は17名であった。
- ③ 医療救援者を派遣する立場から派遣時のご苦労やご負担があったご経験、医療救援者の健康やメンタルヘルスのための工夫やお取り組み、派遣活動を実施して良かったご経験、医療救援者のメンタルヘルスに重要と思われる事項、実施できると良いと思われる事項、所属組織への推奨事項への助言を、インタビューにて意見を得た。当分担任にて作成した「医療救援者のメンタルヘルス推奨事項」、および「所属組織として医療救援者のメンタルヘルスに重要と考えられる推奨事項」を普及することは重要と意見を得た。加えて、インタビューの内容から、これらの推奨事項の文章の修正を実施するとともに、今後の活用方法への示唆を得た。
- ④ PFI 日本語版作成のプロセスとして、ガイドライン(COSMIN)に基づき、順翻訳・逆翻訳・認知的デブリーフィング・原著者の確認等を実施し、日本語版を作成した。②において、信頼性と妥当性の検証を実施し、内部一貫性、構造的妥当性、収束妥当性が示された。現在は、日本語開発論文を国際学術誌に投稿中である。

D. 考察

- ① 計画通りに研修時調査を年内に開始することができた。しかしながら、回答率はこれまで実施していたEMIS調査と同程度であった。今回の調査方法では、多くの隊員のメンタルヘルスをチェックすることは困難であり、来年度以降の調査方法の検討が必要であると考えられた。
- ② 第6回目の調査の回答率は、概ねこれまでと同じ割合であったが、これまでで2番目に高い回答率であった。K6が13点以上の方の割合も、これまでの調査と同程度であった。①②の調査より得られたデータを解析し、研究成果を学会や論文等にて公表していく。
- ③ 当分担任にて作成した「医療救援者のメンタルヘルス推奨事項」、および「所属組織として医療救援者のメンタルヘルスに重要と考えられる推奨事項」を普及することは重要と意見を得るとともに、修正を実施し、今後現場に実装を進めていくための準備を進めることができた。インタビューの内容等より、今後の活用方法としては、学会等にはセッションを設けることができないか関係者と調整する、関連学会のHPに掲載をしてもらえるように調整すること等を予定している。最終年度の令和6年度には、「修正した医療救援者のメンタルヘルス推奨事項」および「所属組織として医療救援者のメンタルヘルスに重要と考えられる推奨事項」を実装し、現場にて活用できるように計画を進めていく。
- ④ 日本語版PFIは、日本の医療従事者において信頼性と妥当性が示された。現在投稿中の日本語開発論文の受理にむけて進めていく。日本語版PFIを今後の調査に用いて、DMAT・DPAT隊員のメンタルヘルスの問題だけでなく、医療従事者としての成長や医療従事者としてやりがい等のメンタルヘルスの観点よりポジティブな面についても、研究を進めていく。

E. 結論

3年計画の1年目の令和4年度は、研修時調査の開始、EMIS調査の第6回調査、病院の管理者等のDMAT・DPAT隊員を派遣する立場の方へのインタビューを実施でき、計画通りに研究を実施することができた。当初の計画に加えて、インタビュー内容より重要と考えられた、PFIの日本語版の翻訳、信頼性と妥当性の検証のための調査を実施した。令和4年度は予定通りに研究を実施できたため、令和5年度も当初の計画より変更はせずに研究を進めていく予定である。

G. 研究発表

1. 論文発表

- ① Asaoka H, Koido Y, Kawashima Y, Ikeda M, Miyamoto Y, Nishi D. Association between clinical decision for patients with COVID-19 and post-traumatic stress symptoms among healthcare professionals during the COVID-19 pandemic. *Environmental and Occupational Health Practice*. 2022;4(1): eoHP.2022-0018-OA. doi:10.1539/eoHP.2022-0018-OA

2. 学会発表

- ① Asaoka H, Koido Y, Kawashima Y, Ikeda M, Miyamoto Y, Nishi D. Association between

clinical decision making for patients with COVID-19 and post-traumatic stress symptoms among healthcare professionals during the COVID-19 pandemic in Japan. The 25th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference. EC-118, Taiwan (online), April 2022, Poster Presentation.

- ② Asaoka H, Koido Y, Kawashima Y, Ikeda M, Miyamoto Y, Nishi D. Longitudinal change of psychological distress among healthcare professionals with and without psychological first aid training experience during the COVID-19 pandemic. The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference. Tokyo, March 2023, Poster Presentation.